

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和 7 年 7 月 14 日

犬 山 市 議 会
議 長 大沢秀教 様

議員名 畑竜介

下記のとおり、 の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年7月8日(火) ～ 令和7年7月9日(木) (1泊2日)
(2) 場 所	熊本県天草市・八代市・熊本市
(3) 形 態	会派（創犬会）：その他（ ）
(4) 内 容	別紙
(5) 成 果 ・ 提 言	別紙



熊本県天草市「公共施設の再配置について」

2市8町の合併により誕生した天草市では、急激な人口減少と高齢化に対応するため、公共施設の最適化に本格的に取り組んでいました。

○ 人口の推移と見通し

- ・合併当初は10万人を超えていた人口が、現在は約71,000人
- ・令和12年には高齢者が生産人口を上回る見込み
- ・令和22年には約48,000人まで減少と推計

○ 課題

- ・合併時にすべての公共施設を残したまま統合
- ・法定耐用年数を超える施設は令和12年に約1,033ヶ所
- ・県内で一人あたりの公共施設面積が最大である
- ・維持費・更新費の負担が今後さらに拡大

○ 対応策

- ・「公共施設再配置計画」(平成28年策定)
- ・公共施設のポートフォリオ評価を実施
 - Dランク:原則廃止(例:市営住宅など)
 - Cランク・Bランク:利用状況をもとに統廃合や複合化を検討
 - Aランク:単独でも存続すべき施設
- ・“あれば便利”から“賢く使う”へ、一貫した判断基準を明確化
- ・「事後保全」から「計画保全」へと転換、目標耐用年数を設定し長寿命化へ

○ 実施例

- ・小学校の統廃合:スクールバス運行に約4億円かけても、長期的には統廃合が経済的
- ・保育園:かつては公立22園+民間37園 → 公立を民営化・廃止で大幅にスリム化
- ・使用していない施設は令和4年度中に原則廃止

○ 工夫

- ・施設の再配置は「利用圏域を超えて」実施

・住民説明会には所管課だけでなく財政部も同席し、丁寧に説明し理解を得ているとのこと

○ 成果・提言

人口減少が進む中、施設を「減らす」ことに正面から向き合い、計画的かつ戦略的に進める姿勢が印象的でした。

犬山市でも今後、老朽化により更新しなければいけない施設が増えていく中で、同様の議論が求められていると考えます。

必要なものを見極め、未来の世代にとっても暮らしやすい「まち」をどう築くか。

犬山も一歩ずつ、現実在即した選択が必要になっていくと感じました。

議会としても、施設の再配置や更新のあり方について、データと実情に基づいた議論を深めていく必要があります。

これからも現場の声を大切に、政策提言につなげていきます。

熊本県八代市「やつしろスマートシティ」について

熊本県第2の都市、八代市(人口約11.8万人)では、地震や豪雨災害、コロナといった災害を契機に、デジタルの力で“市民に優しいスマートなまちづくりを進めています。

○背景と目的

- ・少子高齢化・災害・地域や農業の担い手不足など地域課題の山積
- ・令和4年に新庁舎完成、同時にデジタル推進を本格化
- ・「デジタル化推進基本計画」を策定し、“持続可能な八代”を目指す

○主な取り組み

- ・全庁的なDX体制の構築
- ・全課にDX推進員を配置(自薦・指名)
- ・BPR(業務改革)を徹底し、年間1,600時間の業務時間を削減

○スマート避難所「はちパス」

- ・QRコードで避難所入退室を管理し、受付職員の負担軽減
- ・健康状態や安否確認もスマホで対応
- ・登録者数5,445人、経費は約3,200万円(うち半額は国の交付金)

○医療 MaaS

- ・坂本地区での遠隔医療を実現(豪雨で無医療地化)
- ・遠隔聴診、オンライン服薬指導などを展開
- ・診療 317 人、服薬指導 1,085 人

○庁内 DX ツール導入

- ・ロゴチャット、ロゴフォームなどを活用し、通報・申請を電子化
- ・電子図書館やポータルアプリ「やつしろポータル」も展開(登録 3,247 人)

○スマート農業の展開

- ・基幹産業である農業(7,000ha)も DX 化
- ・ドローンや自動機械だけでなく、「ChatGPT」による事務作業の効率化も推進
- ・若手や女性農業者、JA 等と「スマート農業未来会議」を設置し事業展開
- ・肥料高騰への対策として、地域資源(野菜残渣・豆かす)を活用した肥料づくりにも挑戦

○今後の課題

【課題】

- ①職員のスキル向上と意識改革
- ②アナログ規制見直しへの対応
- ③市民のデジタル活用支援
- ④セキュリティ対策
- ⑤維持管理コストの増加対応

○成果・提言

災害や人口減少といった困難を、チャンスに変える八代市の取組は、非常に実践的で示唆に富んでいました。

犬山市でも、将来を見据えたデジタル施策が進みつつあり、「犬山市 DX 推進指針」は作られましたが、より計画的に進めるには八代市のような「推進計画」も必要になると思います。

犬山市としても更なる DX 推進のために、丁寧な議論をしながら進めていく必要があります。

熊本県熊本市「熊本城の復旧について」

熊本城は平成 28 年熊本地震により甚大な被害を受けましたが、全国的な支援と市民の熱意により復旧が進められています。犬山城を擁する自治体として、同様の文化財を将来にわたって守るためには、災害に対する備えと、復旧・復興の体制づくりが重要です。本視察では、復旧工事の進捗、資金調達の仕組み、技術的工夫、そして市民との関係づくりに焦点を当てました。

(1) 復旧の基本方針

- ・ 原形復旧を基本としつつ、現代技術を活用した耐震補強を実施
- ・ 特に石垣については、「伝統技術」と「科学的解析」を併用
- ・ 歴史的な景観を守ると同時に、再発防止・安全性の向上を両立

(2) 資金調達と市民参加

- ・ 熊本市は「熊本城災害復旧支援金」として、全国から寄付を募る
- ・ 企業・個人の寄附者に対しては石垣に「名札」を残すなど寄付への動機づけが巧み
- ・ 市民ボランティアによるガイド活動や情報発信も活発で、愛着の醸成に成功している

(3) 復旧過程の「見せる化」

- ・ 復旧工事を透明性高く、段階的に公開（仮設通路・展望所の設置）
- ・ 修復現場を「見せる」ことで市民・観光客の関心を維持し、理解を促進

(4) デジタル技術の活用

- ・ 3D スキャンによる構造解析や、ドローンによる被害状況の把握
- ・ バーチャル熊本城アプリなど、ICT を活用した文化財理解を推進

○成果・提言

熊本城では、復旧工事を仮設通路や展望デッキから公開することで、市民や観光客の理解と関心を高めています。犬山城においても、整備中の様子を積極的に公開する仕組み（例：展望足場・仮設見学ルート・解説掲示）を取り入れ、「工事中でも魅せる城」を取り入れることにより、整備期間中も来訪者の減少を防ぎ、学習・観光の両面でプラスとなります。犬山城は、現存天守という貴重な文化財であり、まちのシンボルです。今後、災害への備え、市民との協働、持続的な保全体制を築くうえで、熊本城の

取り組みは多くのヒントを与えてくれました。文化財を「守る」だけでなく、「活かす」視点を持ち、未来の犬山城の姿を見据えた戦略的な取り組みを研究します。